

INAF 第 34 回研究会
2026年6月28日16:00PM~

トランプ 2.0 とグローバル・ガバナンスの展望
－重層化する「3の世界」論－

平川 均

はじめに

トランプ第2次政権は、対ベネズエラ軍事作戦、イラン軍事攻撃などに見られるように、**ロシア**のウクライナ軍事侵攻、**イスラエル**のガザ虐殺などと一体となって、20Cに生れた国際秩序を公然と破壊している

トランプ2.0外交が生み出すグローバル・ガバナンスはどのようなものか

- トランプの**権威主義・帝国主義**は、今やドンロー主義を標榜する
- トランプのグローバル・ガバナンスは米中**G2**と米中ロ3極外交
- トランプ対抗の国際秩序が求められている

報告は、1. トランプ2.0の対外政策の性格、2. それが生む世界秩序、3. トランプに抗する様々な試みが生む世界の重層構造と展望に光を当てる

- 報告の構成
 1. トランプ2.0とその外交がもたらす世界秩序
 2. グローバルな「3つの世界」認識
 3. トランプ2.0がもたらした「戦略的3つの世界」の重層化

1. トランプ外交とそれがもたらす世界秩序

—「プロジェクト1897」と「ヤルタ2.0」—

(1) 「プロジェクト1897」と帰結としてのNSS 2025

2024.11月大統領選 トランプ: マッキンリー大統領賞賛:「偉大な大統領」、
「関税男」 2025.1月 トランプ大統領就任演説: アラスカのデナリ山をマッキン
リー山に、メキシコ湾をアメリカ湾。パナマ運河を取り戻す。領土を拡大する
(expands our territory)

2025.2月～基礎関税(4月 相互関税) + 11月 国家安全保障戦略 (NSS
2025): 力による平和、モンロー主義のトランプの帰結 (the 'Trump Corollary' to
the Monroe Doctrine) ⇒ 2026.1月ベネズエラ軍事作戦・ドンロー主義標榜(力
による西半球支配 + α(イラン軍事作戦)、2月28日 イラン軍事攻撃、ハメネイ
虐殺(イラン軍によるホルムズ海峡封鎖と迷走)

マッキンリー大統領 1897誕生 高関税 + 帝国主義者 1898 米西戦争勝利
キューバ独立、プエルトリコ、グアム、フィリピン(2000万ドル買収)植民地化

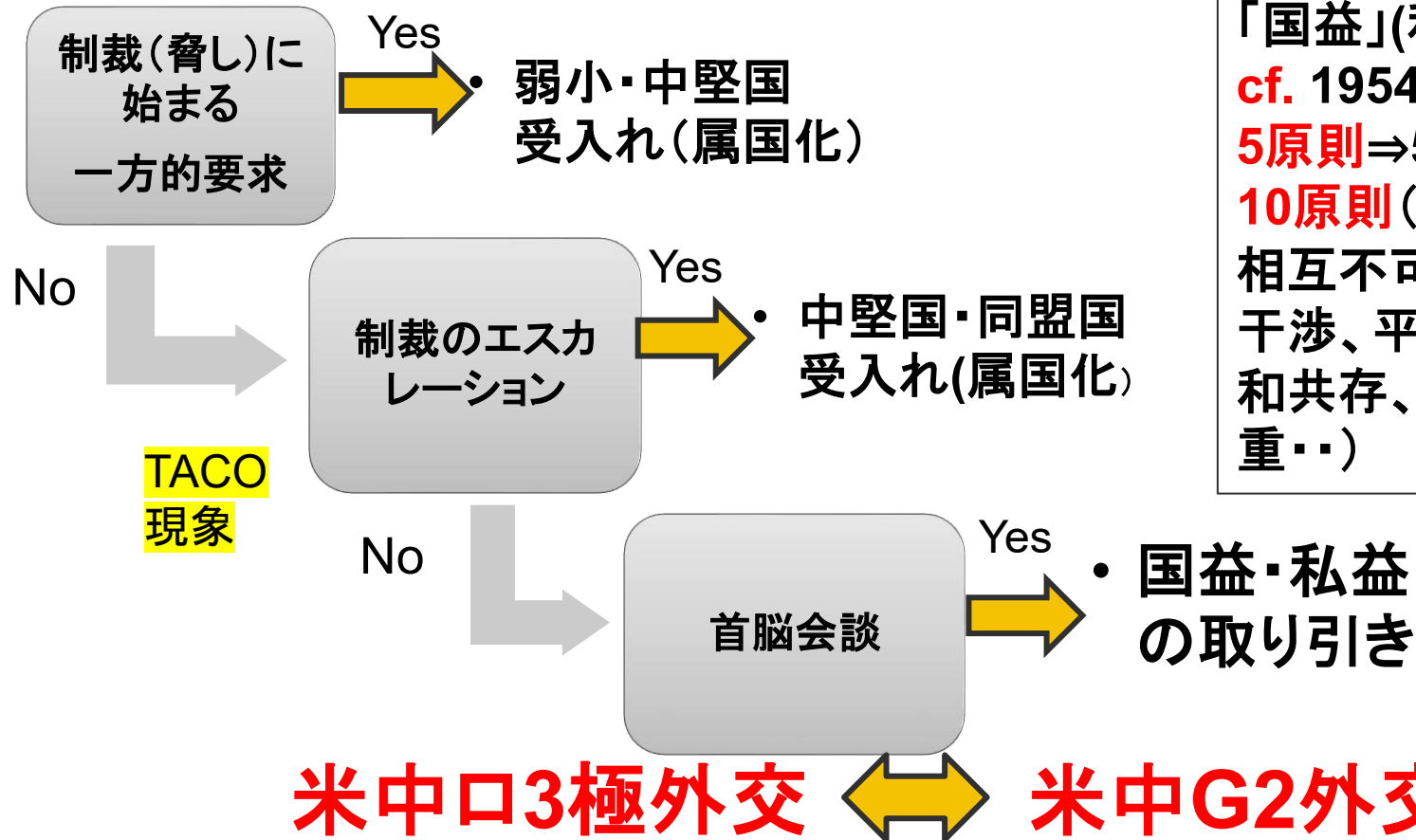
トランプ2.0「プロジェクト1897」: カナダを51番目の州に、パナマ運河の米船舶
通航料無料化要求、デンマーク領グリーンランド領有化画策、イスラエル・ガザ地
区住民追い出しと高級リゾート計画、2025.4月にはスエズ運河の通航料無料化
の公言(= 英エコノミスト) 2026.1月～ベネズエラ軍事侵攻・指導者拉致、2月～
イラン軍事侵攻、ホルムズ海峡問題(→6月14日 終結で暫定合意)、キューバ海
上封鎖 = ドンロー主義

1. トランプ2.0とそれがもたらす世界秩序

—「プロジェクト1897」と「ヤルタ2.0」

(2) トランプ・ディールとその帰結

ディールのフロー



トランプ・ディール:
国内・国際の法・
ルール・規範無視の
「国益」(私益)追求
cf. 1954 中印 平和
5原則⇒55 バンドン
10原則(領土保全、
相互不可侵、内政不
干渉、平等互惠、平
和共存、国連憲章尊
重..)

1. トランプ2.0とそれがもたらす世界秩序

—「プロジェクト1897」と「ヤルタ2.0」—

(2)-2 トランプ・ディールの事例

例1. エスカレーション トランプ関税(制裁・相互関税) 2025.2-5月 米中間 **追加関税145%へ (中国報復関税125%)**→ 5月 双方115%引下げ 米30%、中国10%へ→ 米 半導体輸出規制 vs 大豆輸入規制 レアアース輸出規制 **8月(11日)発効は90日間延長**

2025.10月 トランプ・習首脳会談(釜山)(10点満点、12点) 貿易交渉は休戦 両首脳の訪中合意(イラン攻撃でトランプ訪中 2026.3月から5月に延期)→

2026.5月 首脳会談(北京) 豪華な歓迎 乏しい成果 + (本年9月24日の習訪米)

例2-1 ウクライナ戦争 2025年2月 トランプ・ゼレンスキー会談(ホワイトハウス、決裂) **支援条件** ウクライナのレアアース開発権益(=対中対策)の対米譲渡(GDPの2倍)。8月 トランプ・プーチン首脳会談(アラスカ)。

11月 28項目調停案 米口間でロシア有利な調停案作成

2-2 トランプ2.0のウクライナ援助 ⇒ **スライド(小国の手段化)**

例3 2025年7月 ロシア原油輸入国への2次関税100%表明

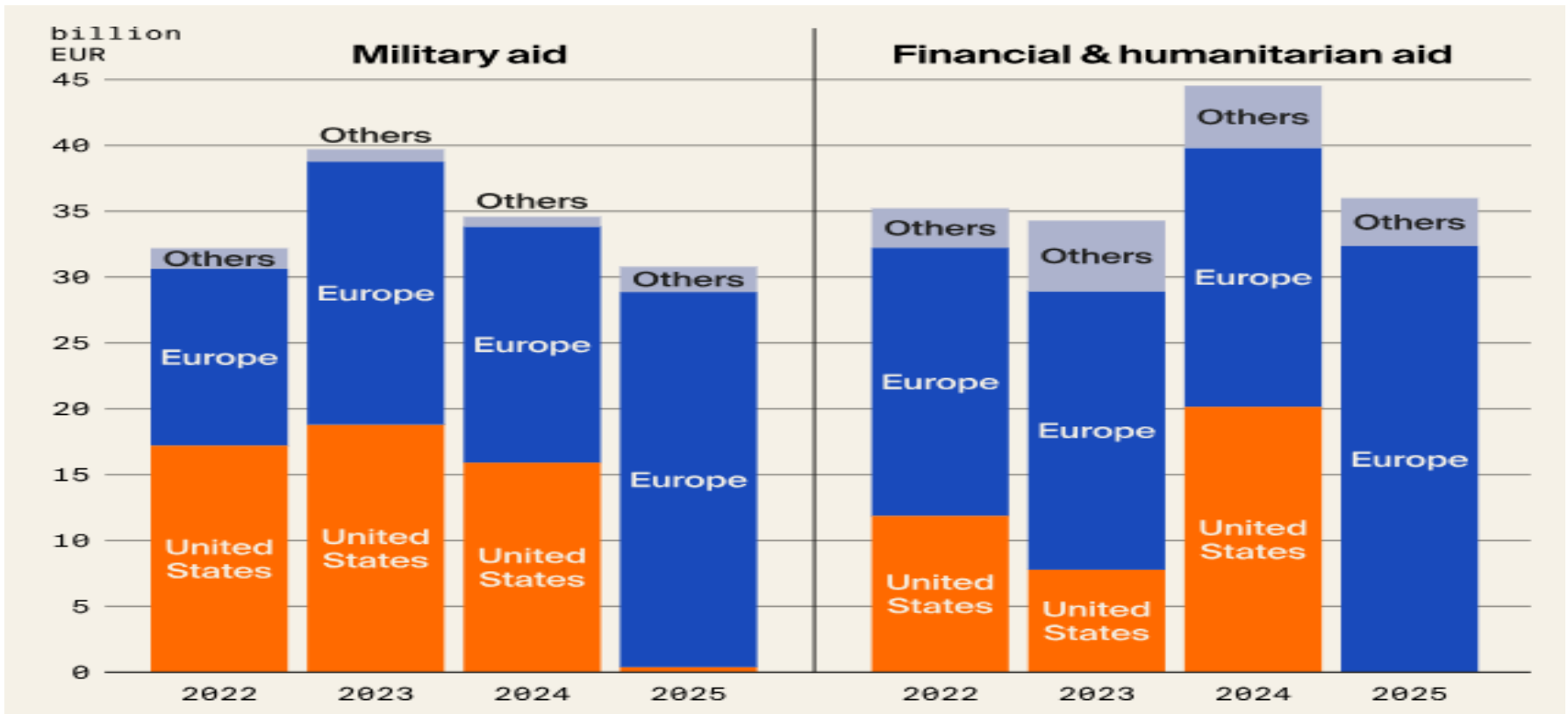
8月 ロシア原油輸入のインドに50%の関税追加(中国は1年延期交渉)

2026.1月 イランとの取引国に25%の追加関税表明⇒ 2月大統領令署名

1. トランプ2.0とそれがもたらす世界秩序 -「プロジェクト1897」と「ヤルタ2.0」

(2)-3 トランプ2.0のウクライナ支援

トランプ2.0・NATO関係の限界と課題はなにか？



Note: Europe refers to EU member states and institutions, as well as Iceland, Norway, Switzerland, and the UK. "Others" refers to the remaining donors tracked in the Tracker, namely Australia, Canada, China, India, Japan, New Zealand, South Korea, Taiwan, Türkiye. All figures are inflation adjusted (in real 2021 Euros) using Oct 2025 IMF WEO data.

Source: Trebisch, C. and Nishikawa, T. (2026) Policy Article: Europe Steps Up: Ukraine Support after Four Years of War, Kiel Policy Brief, 203

1. トランプ外交とそれがもたらす世界秩序 —「プロジェクト1897」と「ヤルタ2.0」—

(3)-1 トランプの中ロ別格扱いと3大国指導者の縄張り調整＝「ヤルタ2.0」



出所:ヤルタ・リヴィディア宮殿ギャラリー作品「Yalta 2.0」展示(日経 中沢克二記事 2025.2.19)
1945.2月 ヤルタ会談(クリミヤ半島・チャーチル・ルーズベルト・スターリン) 戦後秩序に関わる秘密外交

トランプ2.0の別格中ロとの3極外交

中沢記事は、ウクライナ後の世界秩序 トランプ・プーチン・習近平⇒ **ヤルタ2.0!**

ロシア 2022.2月 ウクライナ軍事侵攻 制裁を受ける、ICC プーチン逮捕状にICC裁判官制裁、
2025.8月 トランプ・プーチン首脳会談(アラスカ)ロシア制裁形骸化、11月 国家安全保障戦略
(NNS 2025)でEU批判、ロシア批判なし、2026年 頻繁なトランプ・プーチン電話会談、3月 米イ
ラン攻撃、仲介提案、6月 プーチントランプ誕生祝い会談

中国 上述

1. トランプ外交とそれがもたらす世界秩序

—「プロジェクト1897」と「ヤルタ2.0」—

(3)-2 「G2」論と「トゥキディデスの罠」

「G2」提唱主体の逆転(米バーグステン G2⇒中 習 G2⇒ 米トランプ G2)

2005 C.F. **バーグステン** 国際組織との調整で米中G2案 内外の反対(で私案)

⇒ 2008 世界危機で中国負担を警戒 G2論に否定的

(⇒2012.8月 **アリソン**「トゥキディデス罠」論の発表でG2論との結合)

2013.6月 **オバマ**・習会談 習「**新型大国関係**」呼びかけ 「**太平洋は米中大国を受け入れるに十分広い**」(中国内でアリソン「トゥキディデスの罠」検討済み)

オバマ拒否 習は以後、米中関係で「**トゥキディデスの罠**」に言及

2015.9月 **オバマ**・習会談 習「**トゥキディデスの罠**」を持ち出し米中関係を問う

「(米中は)世界経済の**第1と第2の経済大国**」

(⇒ 2017-2020 トランプ1.0 米中貿易戦争。G2提案の余地無し)

2021.11月 **バイデン**・習バーチャル会談 習:両国は互いの社会制度・路線の尊重を「The world is big enough for the two countries to develop individually and collectively.」(Ministry of Foreign Affairs, PRC, Nov.11 &16)

2023.11月 **バイデン**会談 習「**地球は中米の共存で十分に大きい**」

2024.11月 **バイデン**会談(APEC リマ) 習「**トゥキディデスの罠**」の回避を迫る 8

1. トランプ外交とそれがもたらす世界秩序 ー「プロジェクト1897」と「ヤルタ2.0」ー

(3)-3 トランプ2.0の「G2」論

2025.10月 トランプ・習会談(釜山) トランプ「G2 meeting」と呼ぶ。

2026.2月 トランプ・習電話会談 トランプ「米中は偉大な国」、「米中関係は世界でもっとも重要」

2026.5月14日 トランプ・習会談(北京) 習「トウキディデスの罠を乗り越え、大国関係の構築を(トランプに)問う」、「建設的戦略的安定関係」の構築で合意。ただし、台湾問題で警告。Fox News インタビューにトランプ 米中は強国、「G2」

2026.5月20日 習・プーチン会談(北京) 中ロ連携強化。世界は「ジャングルの法則」に戻る危険。米国のベネズエラ、イラン攻撃批判。国連憲章、第2次大戦後の国際秩序を守る、グローバル・サウスを団結させる

G2とヤルタ2.0(3極外交)は相互補完関係。20cの類似の歴史的経験

①1945 ヤルタ会談 3巨頭会談 ②1970s 米ソ冷戦構造⇒ 中ソ対立→キッシンジャー外交、3極関係 毛沢東3つの世界論+米中準同盟→Détente

対立と連携関係の共存

但し、トランプがG2、中国はG2を使う必要無し! ?⇒ 「建設的戦略的安定関係」

⇒ 2026.5月の北京首脳会談で「トウキディデスの罠」に言及。その意味は?

米国に認めさせた「大国中国」と「台湾問題」の交渉事項化、新たな世界戦略

2. グローバルな「3つの世界」認識

(1) 表 再生「3つの世界・勢力圏」論(予備的整理)

Alexander Stubb

G. John Ikenberry

| | 3つの勢力圏 (The triangle of power, three spheres of power) | | | 3つの世界 (Three worlds) | | |
|-------|--|--|--|--|--|---|
| | Global West | Global East | Global South | Global West | Global East | Global South |
| 地域・国 | オーストラリア、カナダ、日本、ニュージーランド、韓国、EU、米国 | 中国、ロシア、北朝鮮、ベラルーシ、イラン | アジア、アフリカ、ラテンアメリカ、中東、ペルシャ湾、中央アジア諸国、ブラジル、インド、インドネシア、ナイジェリア、サウジアラビア、南アフリカほか | 米国とヨーロッパほか | 中国、ロシア | 非西側発展途上国 インド、ブラジルほか |
| 性格・特徴 | 既存の国際秩序や制度 (UN, WTOなど) の維持。民主主義。基本的人権、デモクラシーに基づくが柔軟な協力、価値に基づくリアリズム (values-based realism) 外交 | 中国とロシアは新しい世界秩序を追求。デモクラシーと権威主義の間の選択に代わる独自の道 | ウエストかイーストか、デモクラシーか専制か、自由貿易か国家統制か、シェアのルールか否かに向けた世界秩序の形成で影響力を持つ勢力 | 米国は自由主義的民主主義関心を守りかつ進める国際秩序を追求し擁護する | 既存の国際秩序への挑戦。ポスト米国、ポスト西側の国際秩序の建設。西側自由主義に代わる、中国とロシアの権威主義的支配制度に心地よい国際秩序 | ウエストとイーストの間の世界秩序に向けた闘争の主要軸。弱い闘争の主要軸。弱いが、既存パワーに縛られない。A sort of "swing grouping". |
| | フィンランド (グローバル・ウエスト) にとって、自由・人権・国際ルールなど普遍的価値に基づくが、リアリズム重視の重要性 (Values-based realism as a set of universal values based on freedom, human rights and international rule) | | | グローバル・ウエストの悪夢は、グローバル・イーストとグローバル・サウスの同盟。グローバル・イーストの悪夢はグローバル・ウエストとグローバル・サウスの同盟。 中国は閉鎖的権威主義的制度化の傾向 | | |

出所: G. John Ikenberry (2024) Three Worlds: The West, East, and South and competition to shape global order, International Affairs, Vol.100, Issue 1, January. Alexander Stubb (2024a) Stubb urges west to re-think its conduct toward global south, Helsinki Times, May 31, 2024, ditto (2024b) President Stubb highlighted the importance of institutions while visiting Tampere University, (2024c) Speech by President of the Republic of Finland Alexander Stubb at the Annual Meeting of Heads of Mission in Helsinki on 27 August 2024.ほか

2. グローバルな「3つの世界」認識

(2)-1 BRICSとグローバル・サウス

呼称「グローバル・サウス」の起源: Oglesby, Carl (1969). "Vietnamism has failed ... The revolution can only be mauled, not defeated". *Commonweal*. 90.

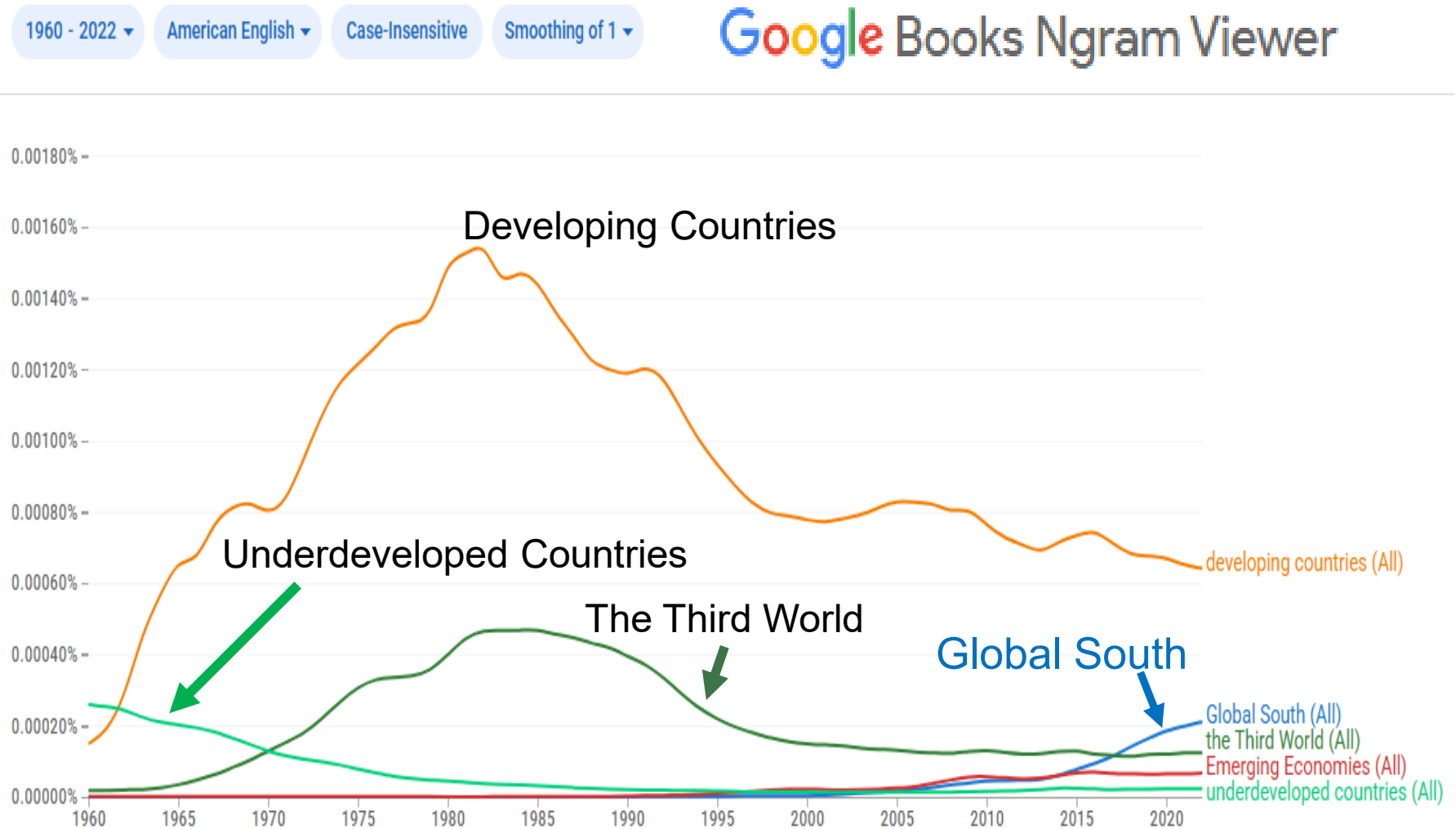
再認識の背景: 地球温暖化・環境＋グローバル化＋新興経済の自信

呼称「グローバル・サウス」の時系列でみた使用頻度:

- ①ボストン大 J. Heine: Google Books Ngram Viewerによる**グローバル・サウス**の使用頻度(1950-2019)2010年代以降増加
- ②大阪大メディア研究機関Global News Viewer, V. Hawkins: **グローバル・サウス**頻出度 2010年代から移民、難民、世界人口、気候変動、国際貿易...と関って増加。特に2020, 21年のCOP26, 27で急増。日本は23年(広島G7サミット)で増加
- ③2023.1月 第1回、11月 第2回「グローバル・サウスの声」サミット インドモディ首相開催→ COP28 (ドバイ) 24.8月 第3回VOGSS 参加123カ国

2. グローバルな「3つの世界」認識

(2)-2 グーグルに現れる単語グローバル・サウス頻出度(1960-2022)



出所: Google Books Ngram Viewerから報告者作成

2. グローバルな「3つの世界」認識

(2)-3 BRICSとグローバル・サウス

2001 造語BRICs誕生⇒ 2009 グローバル・サウスの協力組織としてBRICs結成(ロシアのイニシアティブ)→ 2010 南アフリカ加盟(ブラジルの仲介) BRICS→2011 BRICS サミットへ

2023.5月 広島G7サミット 岸田首相の呼称「グローバル・サウス

中国の発展途上国政策 従来、「G77+中国」(=「発展途上国連帯のシンボル」,1991~)、BRI, BRICS

2023.7月 BRICS+ と、**中国**は「**グローバル・サウスの構成国**」の**自己規定**⇒ 8月 第15回BRICSサミット(ヨハネスブルク)声明に呼称「**グローバル・サウス**」登場。**習** **中国**は「**グローバルサウスの一員**」**表明**⇒ 9月「G77+China」サミット(キューバ)「**発展途上国、いわゆるグローバル・サウス**」の表記登場

2. グローバルな「3つの世界」論

(3)-1 グローバル・イーストと再生「3つの世界」(「3つの勢力圏」)認識

1991 ソビエト連邦解体→F. フクヤマ「歴史の終わり」 共産主義の敗北とリベラルな民主主義、資本主義の勝利⇒ **東西**→ **南北2元論・2分法的世界認識**

= 21世紀に入り旧社会主義圏の **自己認識としてのグローバル・イースト論**

2022 ロシアのウクライナ軍事侵攻

⇒ 欧米、北欧、東欧 から見たグローバル・イーストと「3つの世界」論

フィンランド大統領 A. Stubbの3つの勢力圏論three spheres of power: the triangle of power (フィンランド、スウェーデン: 2022、2023 NATO加盟)

世界はグローバル・ウエスト、イースト、サウスの勢力圏から成る。

グローバル・サウスとの連携の重要性

Our path toward a steadier future starts with seeing the world as it is. And defining a way to hold our liberal values while working humbly and respectfully with those who do not share them. I call this approach “**values-based realism**”(Stubb, A. (2026) The Triangle of Power, p.20)

G.J. Ikenberry (プリンストン大) 3つの世界 (2024) 3つの世界がグローバルな秩序形成で競い合う時代

米国の悪夢: G/イーストとサウスの同盟 vs 中国の悪夢: G/ウエストとサウスの同盟

2. グローバルな「3つの世界」認識

(3)-2 中国の「3つの世界」認識

①大連民族大教授Guo Jinlin **アイケンベリー批判** 西側研究者のグローバル・イースト論:中国をグローバル・サウスから引き離す意図がある。南北関係の敵対的関係を覆い隠す。中国の発展途上国への貢献を否定する (China Daily, 2024. 8月)

②復旦大教授Zhao Minghao **ストゥブ批判** グローバル・イースト論:中国は発展途上国だが、米国は途上国規定から外した。**発展途上国への中国の貢献を否定**

③復旦大教授Sun Degang/Yang Yingqi共著 **新たなグローバル・イースト論** ロシア、ヨーロッパのG/イースト論とは異なる。中国の大周辺外交の目標

:歴史的に中国他の地域はイースト。東アジア、西アジア、南アジア、北アジア、中央アジアを含むパンアジア、大アジア。文化的共通性

グローバル・ウエストの価値観は個人主義、自由主義、民主主義、

グローバル・イーストの価値観は集団主義、秩序、正義

中国の大周辺外交と一帯一路が中国「グローバル・イースト」を創造する。

中国はグローバル・イーストとグローバル・サウスの「2つの翼」をもつ

3. トランプ2.0がもたらした「戦略的3つの世界」の重層化

(1)-1 1970年代中国のもうひとつの「3つの世界」論(第3世界論)

従来、ソビエト3つの世界論(1952年～): 貴族、聖職者、市民

⇒ 第1世界 資本主義国 第2世界 社会主義 第3世界 発展途上国

中国は「第3世界」に属する

1974年 国連資源開発特別総会 中国: 独自の3つの世界論

第1世界 米ソ超大国、第2世界 欧州、日本など先進国(中間地帯)、第3世界 発展途上国 第3世界が第1世界と第2世界の統一戦線、第1世界の覇権を打ち破る

1971年 中ソ対立を利用したキッシンジャー秘密外交

⇒ 72年 ニクソン訪中 国交/回復 米中「準同盟」

⇒ ソ連に圧力 核の脅威で**デタント**へ

3. トランプ2.0がもたらした「戦略的3つの世界」の重層化 (2)-1現代の「戦略的3つの世界」認識へ

トランプ2.0による民主主義の指導国の離脱

⇒ 再生「3つの世界」の修正⇒「戦略的3つの世界」認識へ

a. 米国は 権威主義・帝国主義国化(「プロジェクト1897」)

b. ソ連からロシアへ 経済的2流国家のウクライナ侵攻

c. 中国 世界第2位の経済・技術・軍事大国

d. 米ソ・東西冷戦構造⇒ 米中覇権争い(「新冷戦」)

e. 嘗ての第3世界、「南」非同盟政策⇒ グローバル・サウス
理念＋実利の多角外交

3. トランプ2.0がもたらした「戦略的3つの世界」の重層化 (2)-2中堅国の連携と「戦略的3つの世界」

中堅国のトランプ非追従 「ルールに基づく国際秩序」擁護の試み

1. 2025年5月 マクロン・仏大統領 シャングリラ会議でASEANは「威圧の地帯」として、ヨーロッパとの同盟提唱
2. 7月 イスラエルのハマス奇襲攻撃後のガザ虐殺、**仏 パレスチナ国家承認。英、加が続く**
3. 2026年1月 軍事力辞さない**グリーンランドの米領有化に8カ国が反対(英、独、仏等)**。米 報復関税で脅すが、**仏、加、ノルウェー**はNATO軍派遣 and/or 領事館設置(トランプ軍事力の領有化断念?)
4. 1月 **カーニー・カナダ首相** ダボス会議講演 中堅国の連携を提唱、実践(ストゥブの「諸価値に基づくリアリズム」に依拠)
5. 1月 **ペドロ・サントス・スペイン首相** 米のベネズエラ軍事作戦を国際法違反と批判。2月 イラン軍事攻撃に米軍の基地使用拒否。イギリス他、**ヨーロッパの圧倒的多数が対米軍事協力拒否**

3. トランプ2.0がもたらした「戦略的3つの世界」の重層化 (3)-1 グローバル・サウスと「戦略的3つの世界」

BRICS: 協力を通じた連携強化 貿易決済でのBRICS Pay

トランプ2.0のBRICSの内のIBSA (India, Brazil, South Africa) への威圧

2024.12月、25.1月 ドル離れのBRICSに、100%関税と威圧、

25.7月 17th BRICS Summitには、ドル離れに10%関税と威圧

2025.8月 **インド** ロシア産原油輸入で2次関税25%追加で50% (2026.1月 停止で25%) **ブラジル** ボルソナーロ前大統領裁判理由に関税50% (⇒ 26.1月 10%に) **南アフリカ** (ネタニヤフを戦争犯罪でICC提訴) 白人迫害国として非難、25年 南ア主催国G20不参加、2026 G20開催国米国 招待拒否公言 関税率 30%

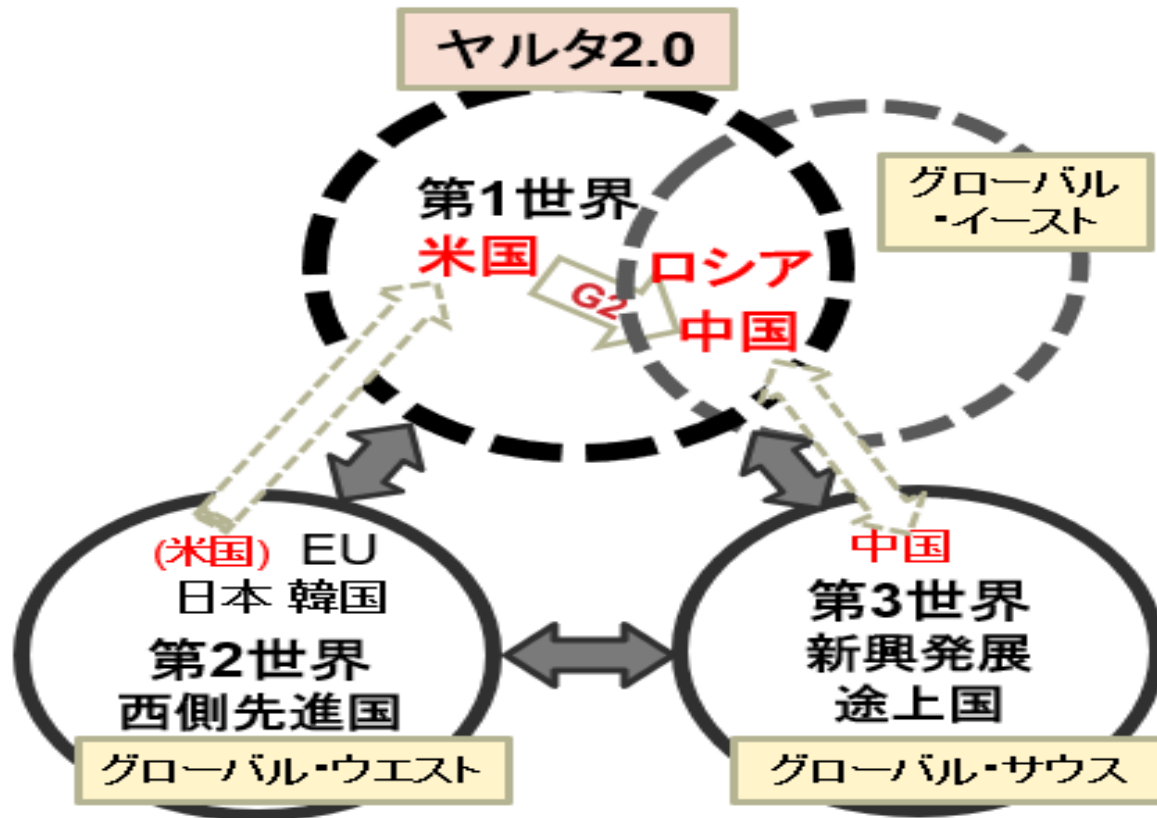
中国 2013～ BRI, 26.3月 全人代第15次5か年計画 AIなど先端産業育成。脱米サプライチェーン構築目指す

2026.5月 **中口首脳会議 声明** (北京) 両国「**上限の無い**」連携、

世界は「**ジャングルの法則**」への回帰。中口は、**国際法と国連憲章の擁護**、

両国は**グローバル・サウス発展途上国を擁護する** 対トランプで中口連携と**グローバル・サウス路線の選択**

3. トランプ2.0がもたらした「戦略的3つの世界」の重層化 (3)-2 重層化された「戦略的3つの世界」政策の時代へ



米 ヤルタ2.0(3極外交)とG2 ドンロー主義 LA 12カ国会議(2026.3月)+イラン攻撃(失敗!?)

中 G2、中ロ連携、BRI グローバル・サウス外交

中堅国 連携 カナダ、フィンランド、フランス…+グローバル・サウス外交

グローバル・サウス 南南協力、ヨーロッパ、日本などとの連携

BRICS連携のトランプ2.0対抗策 トランプの集中的IBSA威圧

EU, 西側諸国(中堅国)のトランプ2.0対抗策 Values-based Realism, 仏、加、英、独、スペインなど

図: 平川作成

China is willing to work alongside Global South countries to practice true multilateralism, advocate for an equal and orderly multipolar world and universally beneficial and inclusive economic globalization, in a joint effort to build a community with a shared future for mankind, he(Xi Jinping) said (Xinhua, Nov.11, 2024).

3. トランプ2.0がもたらした「戦略的3つの世界」の重層化

(3)-1 「米抜き経済圏」の形成

2017年1月 トランプ政権誕生、TPP12離脱

米抜きFTA/EPAの動き⇒ 12月 CPTPP(TPP11)発効

The US share of global goods import flows has declined from its peak in 2000 and hovered around 13 percent for the past decade

US share of global goods imports



Source: International Monetary Fund.

Major US trading partners have concluded additional trade agreements in recent years

| Country/Jurisdiction | In force | In negotiations or pending ratification |
|----------------------|--|--|
| Canada | United Kingdom (2021) Ukraine (2024) | ASEAN Ecuador Indonesia Philippines Thailand United Arab Emirates インド(2026.1妥結) オーストラリア(2026.3. 24妥結) |
| China | Mauritius (2021) Cambodia (2022) RCEP (2022) Nicaragua (2024) Ecuador (2024) Serbia (2024) Maldives (2025) | ASEAN (update) Honduras South Korea (second phase) Peru (update) Switzerland (update) |
| European Union | Vietnam (2020) United Kingdom (2021) New Zealand (2023) Kenya (2024) Chile (update, 2025) | India Indonesia Malaysia MERCOSUR Philippines West Africa United Arab Emirates インド 2026, 1妥結 |

3. トランプ2.0がもたらした「戦略的3つの世界」の重層化 (3)-2 「米抜き経済圏」の形成

Major US trading partners have concluded additional trade agreements in recent years

| Country/Jurisdiction | In force | In negotiations or pending ratification |
|-------------------------|---|---|
| India | Mauritius (2021) United Arab Emirates (2022) Australia (interim, 2022) | Canada Chile European Free Trade Area European Union EU 2026, 1妥結 Israel MERCOSUR (update) New Zealand Peru Oman United Kingdom |
| Japan | United Kingdom (2021) RCEP (2022) | Bangladesh United Arab Emirates |
| Mexico | United Kingdom (2021) | European Union (update) EU 2026.5.22 調印 |
| South Korea | United Kingdom (2021) Cambodia (2022) Israel (2022) RCEP (2022) Indonesia (2023) DEPA (2024) | Ecuador Georgia Guatemala Gulf Cooperation Council |
| United Kingdom (select) | Singapore (2022) Australia (2023) New Zealand (2023) CP-TPP (2024) | Gulf Cooperation Council India ガルフ6カ国、2026.5. 20合意、 South Korea Switzerland Turkey |
| Others | African Continental Free Trade Area (2024) ASEAN Trade in Services Agreement (2021) | ASEAN Digital Economy Framework Agreement EFTA-MERCOSUR Agreement |

出所: J. Bacchus (2026) World Trade without the US, *CATO Policy Analysis*, the CATO Institute, No.1014, March 12, 新聞報道など。

おわりに

- トランプのディール外交⇒ 米中G2と米口中の3極外交(「ヤルタ2.0」)
- トランプ2.0の性格は、権威主義・帝国主義的政権(「プロジェクト1897」)
ベネズエラ軍事作戦とニコラス・マドゥロ大統領拉致、イラン軍事攻撃
⇒ モンロー主義の「トランプの帰結」とドンロー主義 西半球を超える作戦
- G2は、米国(協調主義的G2)→「トウキディデスの罫」を念頭におく習近平のG2
提案、米中勢力圏の分割統治→ トランプのG2→ 習の「戦略的3つの世界」
論に基づくトランプへのG2要求
- 世界認識としての「3つの世界」
1970年代: 1960年代の「3つの世界」から毛沢東の「3つの世界」
⇒ 現代の再生「3つの世界」(グローバルなウェスト、イースト、サウス)
⇒ 米国の離脱による新たな:「戦略的3つの世界」論の構造へ
- 現在は、ヤルタ2.0、無秩序の多極化、ルールに基づく多角主義が競われる
- values-based realism NATO諸国、BRICSの対米自立化の動き
- 課題は、グローバルなウエストとサウスの中堅国、IBSAなどが「ルールに基づく国際秩序」に向けてイニシアティブをとれるか否か
- 戦略的3つの世界が競う重層的世界構造

ご清聴に感謝！

参考文献

拙稿：「トランプ・ディール、3極外交、中堅国連携—トランプ2.0と対抗する国際連携の模索—」世界経済評論、2026年7-8月号

「習・トランプ首脳会談と「トゥキディデスの罠」世界経済評論IMPACT、No.4418、2026年6月17日

「トランプ2.0とグローバル・ガバナンスの展望—重層化する3つの世界論」INAFジャーナル、第4号、2026年5月

「BRICSからグローバル・サウスへ」進藤榮一・東郷和彦他編『大転換する世界』花伝社、2026年3月

「米中覇権争いとトランプの米中「G2」の意味」世界経済評論IMPACT、No.4110、2025年12月1日

「トランプ2.0下の世界とグローバル・ガバナンス—「3つの世界」諸論の検討—」南開大学世界近現代史研究センター・日本研究院、2025年8月

「ASEANの進路とBRICSへの参加」世界経済評論、2025年7-8月号

「トランプ2.0下の世界とグローバル・サウス：BRICSとIBSAに注目して」世界経済評論IMPACT、No.3909、2025年7月21日

「トランプ2.0とグローバル・サウス」時評、ピープルズ・プラン研究所（PP研）、2025年7月

「グローバル・サウスと求められる新たな世界認識」世界経評IMPACT、No.3663、2024年12月16日